

資料編

内容

【資料 1】「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」特設ウェブページ	1
【資料 2】「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」チラシ	2
【資料 3】 みらいファンド沖縄基金紹介冊子『寄付なび 2011 秋』号掲載ページ	4
【資料 4】 メディア紹介記事(新聞記事掲載)	5

【資料 1】 「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」特設ウェブページ

>>> http://miraifund.org/?post_type=kikin&p=2085

みらいファンド沖縄

[ホーム](#)
[活動報告](#)
[寄付金控の発行](#)
[寄付金控の申請](#)
[お問い合わせ](#)

[トップ](#)
[沖縄学生SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)
[SIFEの活動](#)

※この基金の寄
 おります。(2013

※この基金の寄付受付は終了しております。(2013年1月11日現在)

【資料2】 「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」 チラシ
チラシ(表)

みなさまからの寄付を募っております

沖縄学生 SIFE ワールドカップ 派遣支援基金

SIFEについて…

SIFE(サイフ / Students In Free Enterprise)とは、アメリカに本部をおき、世界39カ国、1600もの大学が参画する世界で最大規模の教育に関する国際的NPOです。大学生が社会的な課題を目指し、自ら事業を企画、立案、実行し、ビジネススキルを向上させることを目的としています。その社会的意義や経済的効果を訴え、評価される場「SIFEワールドカップ」を毎年10月に開催しています。SIFEが普通のビジネスプランコンテストと違うのは、計画(Plan)ではなく、成果(Do)に焦点が当たる点です。

この基金の目標

目標① 100万円
SIFE世界大会2010(10月1日)に安曇野へ行ってみたい！
ダクターを含む5人の学生が視察に行ける！

目標② 毎年30万円
SIFE世界大会への参加・視察の旅費助成

沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金とは

SIFEへの参加を通じ、世界的な視野を持つ沖縄を支える人材を輩出するため、この基金を設立いたします。この基金に寄せられた寄付金から、SIFE国内大会および世界大会の参加・視察等にかかる移動費を助成します。沖縄の将来を担う人材の育成を、どうぞご支援ください。

私の夢は、将来沖縄が国際交流の拠点となって、自分が沖縄と海外とのつなぎ役になることです。お互いに認め合い、助け合いながら平和を築いていくことが、今の沖縄には必要だと思っています。

そのためには将来の沖縄を担っていく私たち若者が、社会に対して行動を起こす必要があります。今の沖縄の若者がもっと活発になって、国際交流も豊かになれば、『沖縄21世紀ビジョン』の達成にも近づくと思います。

その一歩としてぜひ、私たちがSIFEワールドカップへ行くのを支援してください！

この基金を提案したのは私です。

牧志 朝英 (まきしともひで) さん
コンダクターとなってこの基金を応援します！

プロフィール

1988年那覇市生まれ、首里高校卒。琉球大学観光産業科学部産業経営学科4年次。那覇市NPO活動支援センターでのインターン中の2009年、関西学院大学の学生との交流がきっかけでSIFEに出会う。2020年世界大会の沖縄誘致を夢見る。NPOカタヤピラの二代目代表を務め、2012年4月読売新聞社に就職。

お問い合わせ

公益財団法人 みらいファンド沖縄
<http://miraifund.org>
office@miraifund.org
TEL:098-884-1123
FAX:098-884-1124
那覇市首里当蔵町1-11-20 新垣ビル1F

みらいファンド沖縄
個人創案型基金

じぶん基金

002

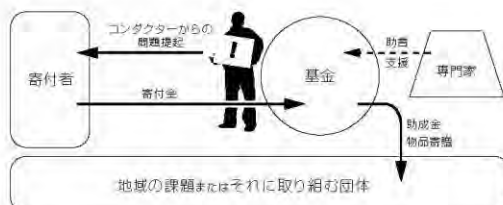
じぶん基金は、みらいファンド沖縄がサポートする個人創案型基金です。じぶんが気付いた社会の課題に対して、じぶんできちんと動いてみる…。そうしてこのプロジェクトのコンダクター(指揮者)が誕生しました。コンダクターの投げかける身近な課題に共鳴したら、あなたもぜひ応援してください。

チラシ(裏)

沖縄学生 SIFEワールドカップ 派遣支援基金

みなさまからの寄付を募っております

沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金では、みなさまからお預かりした寄付金で、事業の実施や、趣旨を同じくする団体/機関への助成を行います。寄付金の執行にあたっては、専門的な知識やネットワークを有する機関/団体/個人により構成される「アドバイザーボード」からの助言を基に、その執行方法や助成先などを決定してまいります。



寄付金の活用状況および収支報告

みらいファンド沖縄ウェブサイト内で公開してまいります。
<http://miraifund.org/>

寄付の方法

下記の銀行口座にて、受付いたします。

沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1380262
 公益財団法人みらいファンド沖縄 代表理事 小阪 亘
 コウエキザイダンホウジン ミライファンドオキナワ ダイヒョウリシ コサカワタル

- * 恐れ入りますが振込手数料は、振込者自身でご負担くださいますようお願いいたします。
- * 領収証が必要な方は、お振込の前または後に、下記の事項をe-mailまたはFAXにてご連絡ください。入金を確認できましたら、郵送にてお送りいたします。

送信内容 銀行お振込時に入力したお名前、振込金額、
 お名前、ご住所
 領収証の宛名
 連絡先 公益財団法人みらいファンド沖縄
 「沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金」係
 [e-mail] office@miraifund.org
 [FAX] 098-884-1124
 * 下のFAX送信票をご利用ください

沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金のお問い合わせ

公益財団法人 みらいファンド沖縄
<http://miraifund.org/>
 e-mail office@miraifund.org
 TEL. 098-884-1123 FAX. 098-884-1124

* みらいファンド沖縄は「公益財団法人」です。公益財団法人への寄付は税制優遇(寄付金控除/損金換算)が適用されます。

FAX送信票

基金名 沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金

銀行お振込時に記入(入力)したお名前または通帳名義
 カタカナでお書きください

お振込いただいた金額

億	千	百	拾	万	千	百	拾	円

 円

この基金へのメッセージをお寄せください

コンタクターへの応援の言葉など、ご自由にお書きください

お名前(ペンネーム)

* いただいたメッセージをウェブサイトなどで使用させていただきます。可・不可

寄付者情報記入欄

お名前

ご住所 〒

領収証 いずれかに○をつけてください

必要 ・ 不要

領収証の宛名

- * 領収証は、上にご記入いただいたご住所・お名前宛にお送りいたします。
- * 寄付金の税制優遇を受けようとする方は、住民票登録の住所地をご記入ください。

■ 個人情報の取扱いについて
 いただいた個人情報は、公益財団法人みらいファンド沖縄にて適切に管理し、寄付の手続きに関する連絡業務や、当財団からのお知らせや案内以外には一切使用いたしません。

【資料3】 みらいファンド沖縄基金紹介冊子『寄付なび 2011 秋』号掲載ページ

公益財団法人みらいファンド沖縄
じぶん基金

<http://miraifund.org/>

グローバルな視野をもつ、沖縄の次代を担う人材の育成を 沖縄学生 SIFE ワールドカップ 派遣支援基金

助成先：地域活動に関心があり、SIFE ワールドカップ視察を希望する県内大学生（公募）

寄付募集目標額

1,000,000 円（毎年）



SIFE ワールドカップ 2011 のようす
（助成を受けた学生が撮影）

社会的課題の解決に取り組む 学生の世界大会 SIFE

社会的課題に取り組む学生たちの世界大会があるのをご存知ですか？ SIFE（サイフ / Students In Free Enterprise）は、約 40 カ国、1,500 以上の大学が参加している、大学教育と企業を結ぶ国際的 NPO。毎年 10 月に開催される「SIFE ワールドカップ」では、各国の予選を勝ち抜いた大学が、27 分間の事業プレゼンテーションで競い合います。日本も 2005 年から参加しており、2010 年大会では日本代表（滋賀大学）がベスト 16 に残る快挙を成し遂げました。

じぶんたちが世界とつながり、 沖縄の未来を拓く

琉球大学の学生、牧志朝英さんは、学生 NPO での活動や那覇市 NPO 活動支援センターのインターンシップなどに取り組んできた中で、「沖縄と世界・海外をつなぎたい」という思いを強くしていました。そんな牧志さんは、2009 年の日本代表、関西学院大学の学生の話聞き、SIFE への参加が学生の視野を広げる、と確信。他の沖縄の学生 NPO にも呼びかけたところ、2 年間で 4 団体が日本大会に挑戦しました。夢は大きく「2020 年に沖縄へ世界大会を誘致すること」。牧志さんは来年には社会人となりますが、これからも後輩たちを支援し、その夢を未来に繋ぎます。

沖縄の学生を世界大会の視察へ

この基金では寄せられた寄付で、世界大会を見たいという学生に助成を行います。これまでの派遣学生は就職・進学した後も後輩へ活動のアドバイスをしており、世界大会誘致の夢を共有する仲間も増えています。

世界的視野を持つ若者を育て、沖縄の未来をつくるこの基金への寄付をお待ちしています。



もし SIFE ワールドカップが沖縄で 開催されたら…

1,000 人の学生と、
400 人のビジネスパーソンと、
100 人の大学関係者が、
世界約 40 カ国から来沖！

沖縄の学生の利益になるだけでなく、観光など
その他の産業にも波及効果があります！

実績

2010 年 8 月から 2011 年 10 月までに 795,110 円の寄付をいただき、2010 年に 3 名、2011 年に 2 名の学生を派遣することができました。引き続き、ご支援をお願いいたします！

基金の創案者の言葉

これから沖縄や日本社会の変革を担っていくのは、わたしたち沖縄の若者です。SIFE はそのビジョンを達成するのに適していると思っています。2020 年までに SIFE ワールドカップを沖縄に誘致したいです。そして将来、沖縄と世界の人々が共生していくためのつなぎ役になりたいです。



「夢を叶える」
牧志 朝英さん

琉球大学経済学部生。沖縄県立、琉球大学、琉球大学経済学部で学ぶ。SIFE への参加が学生の視野を広げる、と確信。他の沖縄の学生 NPO にも呼びかけたところ、2 年間で 4 団体が日本大会に挑戦しました。夢は大きく「2020 年に沖縄へ世界大会を誘致すること」。牧志さんは来年には社会人となりますが、これからも後輩たちを支援し、その夢を未来に繋ぎます。

寄付受付情報

沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金

助成先：地域活動に関心があり、SIFE ワールドカップ視察を希望する県内大学生（公募）

専用
口座

沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1380262

郵便
振替

01780-6-149204

【通信欄への必記事項】 SIFE ワールドカップ

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいたいた寄付は、税制優遇（寄附金控除、損金算入）の対象となります
※領収証の必要なのは、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
※各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄（代表理事 小坂直）」となります。

【資料4】 メディア紹介記事（新聞記事掲載）

2010年7月29日 沖縄タイムス

論壇



朝英 牧志

去る2、3の両日、東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで「SIFE Japan 国内大会2010」が開催された。参加大学は14校で、滋賀大の「まち遊び携帯」が優勝を飾った。本年度から琉球大、沖縄国際大、沖縄大の3大学が初参加し、琉大がルーキー賞を

変革を担う沖縄の学生

世界と共生 つなぐ役に

受賞した。

SIFE (Students In Free Enter

prise) とは米ミズーリ州に本部を置き、40カ国、150

0以上の大学が参画する世界で最大規模の教育に関する国際的

NPOである。大学生が、社会的な課題をビジネスの手法を用いて解決する企画を実践し、そ

統的に積極採用するなど、世界的評価は高い。

わたしは、那覇市NPO活動

支援センターで昨年9月からインターンシップをしている。昨

年11月にSIFE2009日本代表の関西学院大の学生たちと

沖縄の大学生との交流会を行った。そこで県内と県外の学生の情報格差を痛感するとともに、

の社会的意義や経済的効果を訴え、評価してもらう場「SIFEワールドカップ」を毎年10月に開催している。今年の開催地は米ロサンゼルス。SIFEの活動は、全世界で協賛企業からの年間1900万ドルを超す支援金で運営されている。支援企業はSIFEに参加する学生を継

県内学生の社会的な活動が県外と比較しても引けを取らないと確信した。「沖縄と県外、沖縄と海外の学生をつなげたい」と自らが描いていたビジョンとSIFEが重なった。活動の「成果」に焦点が当てられる場であることに魅力を感じ、発表者でなく調整役としてSIFEに沖

縄の大学生を連れていくことを決意した。

SIFE日本予選で発表を行

った沖縄の学生たちは初めての挑戦で失敗、反省も多々あったが充実感による満面の笑みを浮かべていた。わたしたちにとつ

て実りある経験となった。

沖縄21世紀ビジョンに「世界に開かれた交流と共生の島」

「多様な能力を発揮し、未来を開く島」といった将来像が描かれている。これから沖縄や日本社会の変革を担っていくのはわたしたち沖縄の学生だ。SIFEはそのビジョンを達成するのに適しているとわたしは考える。SIFE日本事務局、沖縄の有識者と連携し、2020年までにSIFEワールドカップを沖縄に誘致したい。そしてわたしは将来、沖縄と世界の人々が共生していくためのつなぐ役になりたい。

来る8月15日午後1時から琉球大50周年記念館で、SIFE沖縄チームの取り組みに関する報告会を開催する。来年度のSIFE参加に興味のある学生、大学教授、行政、企業も含め多くの方の参加を呼び掛けたい。

(西原町、那覇市NPO活動支援センター、21歳)

2010年8月18日 琉球新報

誰かの役に立ちたいと行動する大学生が、自分たちの社会的な活動を競い合う「SIFE(サイフ) Japan国内大会2010」がこのほど、東京都で開かれた。県内から3団体が初参加し、大学生向けのフリーマガジン「Act!」の発行やイベント企画を行う琉球大学チーム「学生総合メディアAct!」がルーキー賞を勝ち取った。参加学生が15日、同大で報告会を開催。大会参加を各団体に働き掛けた牧志朝英さん＝琉球大3年＝は「2020年までにSIFEワールドカップを沖縄に誘致したい」と会場の参加者ら約100人に宣言。その条件となる世界大会4強入りを16年までに果たすことを目標に掲げた。

琉大チームがルーキー賞

国内大会の報告やパネルディスカッションが開かれたSIFE沖縄チーム活動報告会。15日、西原町の琉球大学50周年記念館



社会活動で世界に挑戦

学生の大会に県内3団体

東京

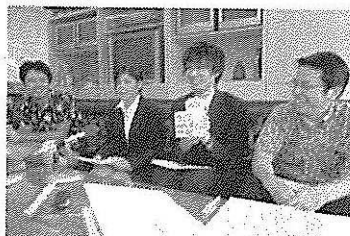
「SIFE」(Students In Free Enterprise)はアメリカに本部を置く国際的なNPO団体で、世界40カ国の大学が参加している。学生が社会的な課題の解決を目指し、自ら事業を企画、立案、実行し、ビジネススキルを向上させることを目的としている。05年以降10月に各国代表による世界大会が開かれている。7月の国内大会には琉球大以外に、高校生に先輩と語る場を提供するなどキャリア教育を展開している沖縄国際大の「NPOカタヤビラ」と、聴覚障がいのある人を支援するために映像の字幕付けに取り組む沖縄大学の学生団体「字幕つけ隊」の3団体が参加した。報告会では「沖縄から世界へ！世代を超えて私たちがなすべきこと」をテーマに、国内大会に参加した学生や企業家、行政職員ら6人によるパネルディスカッションが開かれた。Actの桃原理乃代表は「いろいろな学生と交流でき、視野が広がった」と報告。カタヤ

ビラの金城田代表は「学生と社会をつなげるコーディネーターになりたい」と今後の決意を込めた。出場メンバーらは、10月にロサンゼルスで開催される世界大会を観察する学生を派遣するための寄付を1000円から募っている。問い合わせは那覇市NPO活動支援センター☎098(861)5024。

2010年9月12日 琉球新報

学生北米派遣へ 人材育成基金設立 みらいファンド沖縄

国際的NPO「S I F E」(Students In Free Enterprise)が主催し、大学生が行動した成果を競い合う世界的ビジネスコンテストへの参加を支援しようと、みらいファンド沖縄(小阪亘代表理事)は「沖縄学生S I F Eワールドカップ派遣支援基金」を設立した。寄付は1口100円からできる。9日県庁で記者会見があり、企画した那覇市NPO活動支援センターの牧志朝英さんは「沖縄の将来を担う人材育成を



支援してほしい」と広く寄付を呼び掛けた＝写真。

基金は直近の目標に、10月10日から米ロサンゼルスであるS I F E世界大会に県内から学生ら5人が視察に行くため、9月末までに100万円の造成を目指している。来年以降の世界大会などの旅費助成も目指す。

寄付の振込先や詳細はホームページ<http://miraifund.org> ☎098(884)1123。

2010 年 9 月 12 日 琉球新報

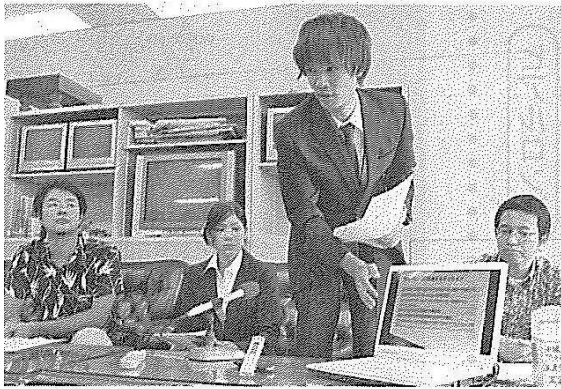
2010年9月14日 沖縄タイムス

学生よ、社会起業に夢抱け

世界大会向け基金

みらいファンド 支援呼び掛け

「みらいファンド沖縄」（小阪代表理事、那覇市）は、次世代のビジネスリーダーを育成するNPO「SIFE」（サイフ）の教育プログラムに、沖縄から大學生を派遣するための基金を設立した。一般から募る寄付金を原資に、年一回あるSIFEの国内、世界大会に移動費を助成する。



基金を創案した琉球大学3年の牧志朝英さんは「沖縄からの人材発掘と育成に、市民の皆さまの支援をお願いしたい」と呼び掛けている。9日、牧志さんや小阪代表理事らが県庁クラブで会見し、概要を発表した。

SIFEは協賛企業の支援金で運営されている米ミズーリ州に本部を置く国際NPOで、プログラムには世界47カ国、1500以上の大学が参加。毎年10月の世界大会には、収入を得ながら社会課題の解決に取り組む大學生が、活動の成果を発表、実務家の審査評価で競い合っている。今年7月にあった国内大会は、滋賀県の彦根城を訪れる

沖縄の学生をSIFEに派遣する意義を訴える琉球大学の牧志朝英さん（右から2人目）＝9日、県庁記者クラブ

観光客に、携帯電話でクイズに答えてもらう観光案内システムを開発し、観光客の滞在時間を伸ばした滋賀大学チームが優勝。世界大会への出場権を得た。

県内からは、琉球、沖縄国際、沖縄の3大学が初めて出場。雑誌の発行やイベントの主催を通じ、大學生や専門学生のキャリア支援を行っている琉球大学「Acet」がルーキー賞を受賞した。

設立された基金は、社会の課題に気付いた個人を支援する同ファンドの「個人創案型基金」で、今年SIFEの国内大会に参加した牧志さんの提案に、同ファンドが賛同した。

牧志さんは「SIFEへの参加を通じ、グローバルな視野を持った人材育成の仕組みをつくり、沖縄の自立経済を主導できるようになるまで学生のレベルを高めたい」と説明。

小阪代表理事は「沖縄の若者が将来にわたって、ソーシャルなビジネスプランを持つ

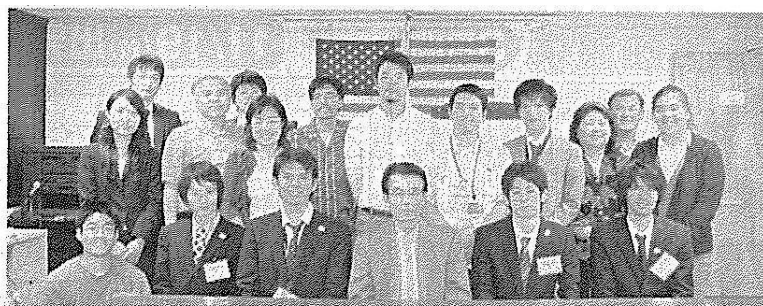
た世界の学生とつながることは非常に有意義」と歓迎した。

基金運営の助言役となる宮里大八・沖縄TLO取締役は「学生がベンチャーを興したり、社会起業家のような形で地域に貢献したりする機会が、SIFEの世界大会でつくれる。沖縄の21世紀ビジョンの趣旨にもかなう」と話した。

今年は10月の世界大会への視察に、5人の派遣を計画しており、9月末までに100万円の目標で既に募金を開始。来年以降は、国内・世界大会への参加・視察に150万円を集め、制度を継続したいとしている。

寄付は一口100円から。詳しくは「みらいファンド沖縄」のホームページか、電話098（884）1123。

2010年11月1日 琉球新報



アメリカ

SIFE世界大会に 県内大学生4人参加 白熱した討論繰り広げる

10月10日からの3日間、

連日2千人以上が出席したカリフォルニア州オレンジ郡アナハイム・コンベンションセンターで行われたSIFE (Students In Finance Enterprise) サイフ・ワールド・カップ世界大会に沖縄大学、沖縄国際大学、琉球大学から4人が参加、みらいファンド沖縄の宮里大八専務理事と小阪巨代表理事が支援者としてロサンゼルス入りした。11日夜には北米沖縄県人会やング会員と懇談した。

沖縄からの6人と本土の大学生4人が出席、英語で沖縄県人会やング会員との懇談会に出席したサイフ参加の大学生ら「沖縄県人会センター」

今回の訪米の目的、自己紹介、今後の抱負など交流と親善を図った。沖縄代表の4人はみらいファンドが県民から募った60万円を使い、今回の大会に参加できたいきさつを紹介した。

琉球大学3年の牧志朝英さんはサイフに参加した理由を「沖縄の大学生が自ら社会貢献やビジネス活動を起こす」で、沖縄社会や経済に少しでも貢献して、今後の沖縄を担っていくリーダーが育ってほしいという思いがあり活動している」と強調。宮里専務理事は「2015年までに沖縄からノーベル平和賞受賞者が選出されるような地盤固めをしていきたい」、「案内役の当銘由洋さんは「自国の経済・社会基盤を認識して、健全で強固な産業の育成を描く学生の講演は圧巻でした。沖縄から参加した学生は、強烈な刺激を受けたのではないかと」

コメントするなど白熱した討論になった。

サイフはアメリカ・ミズーリ州に本部を置き、40カ国、1500以上の大学が参画する世界で最大規模の教育に関する国際的NPO。大学生が、社会的な課題をビジネスの手法を用いて解決する企画を実践し、その社会的意義や経済的効果を訴え、評価してもらう場を毎年10月に開催している。全世界で協賛企業からの年間1900万ドルを超す支援金で運営されている。(当銘貞夫通信員)

2010年11月22日 沖縄タイムス

社会貢献 世界で競う

「うちなーちゅー」
④
米ロス発

福田 恵子

世界に目を向けるよりも、「日本国内」に関心が向きがちなのが、最近の日本の一般的な若者だという印象がある。ある大学の研修旅行でロサンゼルスを訪れた学生たちに話を聞いた時、「アメリカはテロ以来危険な国」「英語が苦手だから（海外は）極力避けたい」といった声を聞いてがくぜんとしたことがある。

ところが、ロサンゼルス近郊アナハイムで開催されたSIFEのワールドカップ観戦を目的

沖縄学生SIFE派遣支援基金コンダクター 牧志朝英さん(21)

沖縄へ大会誘致めざす

に当地を訪れた牧志朝英さんにはまったく違う印象を持った。SIFE (Students in Free Enterprise) はアメリカのミズーリ州に本部を置く大学生が運営する社会貢献活動を支援する団体。各国の国内大会の優秀者が活動の成果をプレゼンテーションにより競うのがSIFEのワールドカップだ。

牧志さんが沖縄から自身を含む4人の大学生と共にアメリカまで観戦に訪れたのは、2020年大会を沖縄に誘致しようとしているため。琉球大学の3年生である牧志さんはSIFEの活動以外にも、学内でフリーペーパーを発行し、さらにNPOカタヤビラを通じて高校生を対象にしたキャリア教育を行って



いる。

「高校生たちが将来をポジティブに捉えて挑戦できるように、200人を相手にほくら大学生40人ほどが出向いて悩み相談を受けたり、語り合ったりする活動を展開しています」

社会貢献活動に目覚めたきっかけは何だったのか。「大学生向けの講演会で、講師が『いやいや勉強をやっている人は何もやっていない人以下だ』と言っているのを聞いて、目が覚めた」と即答した。

以前は新聞記者が卒業後の進路として第1希望だったが、「SIFEの活動を軸にしていきたい」と考えるようにまでなった

みらいファンド沖縄の大阪直さん（左）らと共に笑顔を見せる牧志さん（中央）＝米・ロサンゼルス空港

という。

SIFEの魅力、また出会う前と後で牧志さんの何が変わったかを聞いた。「年齢関係なく、幅広い層の人に出会えることが、この活動の一番の魅力。多くの人との出会いを通して、以前は自分が一番正しいと思う傾向があったのですが、必ずしもそうではなく、視野が広がりました。さまざまな価値観を受け入れることができるようになったと感じています」

ワールドカップ観戦で得たものは大きい。「先進国と発展途上国では社会が抱えている課題に大きな違いがあることを学びました。そういう違いを踏まえた上で、今後も大学生なりに世界を革新していく取り組みを続けていきたいと思っています」。訪米で確かな手応えを感じたよう

（ロサンゼルス通信員）

＝随時掲載

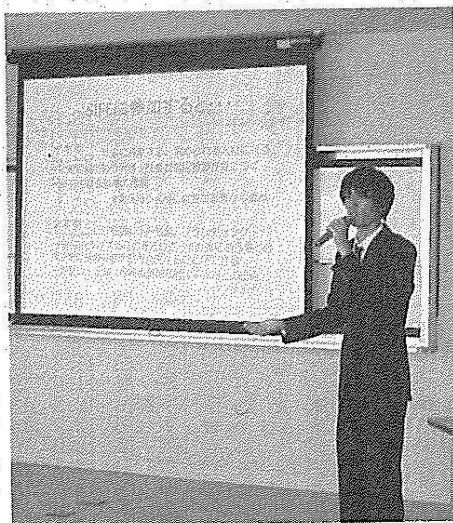
ワールド
ネット

2010 年 11 月 25 日 沖縄タイムス

学生活動に社会支援を

SIFE世界大会米視察報告

世界各国の学生が取り組む社会活動を評価する「SIFE World Cup 2010年度大会」報告会が23



視察した「SIFE World Cup」について報告する牧志さん
＝23日、県総合福祉センター

日、県総合福祉センターであった。大会は10月に米国で開かれ、県内から参加した学生が大会の様子や沖縄における

課題について発表。「世界では企業や行政、NPOが学生活動を支援している。産官学の連携が密接になれば、沖縄の学生活動の実態も良くなる」と提言した。

10月10日から12日まで、米国ロサンゼルスで開かれた大会を視察した琉球大学3年の牧志朝英さん(21)、同4年の向井健太郎さん(22)、沖縄国際大学4年の中村晋一朗さん(24)が報告。

牧志さんは世界40カ国の学生が集まった大会の様子を紹介し「海外学生と比べ、日本

の学生は自国や地元の文化を知らず、発信できていないと思った。北米県人会とも交流し、若者が伝統文化に触れる機会の必要性を感じた」と話した。

世界では企業や行政、NPOによる支援が充実している」と、産官学連携を訴えた。牧志さんら3人は、9月に設立された「沖縄学生SIFEワールドカップ派遣基金」の寄付で同大会を視察。残った基金は来年以降、県内6大学の学生団体が活動を発表する「SIFE沖縄地区フレ大会」で活用する予定。

学生向けフリーペーパー「Act」の制作に携わる中村さんは「社会活動に対する意識は沖縄の学生も高いけれど、環境が整っていない。

沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金

2010 年度～2012 年度

報 告 書

企画編集 公益財団法人 みらいファンド沖縄

発 行 日 2013 年 1 月 28 日

発 行 元 公益財団法人みらいファンド沖縄

本件に関するお問い合わせ

公益財団法人 みらいファンド沖縄

903-0812 那覇市首里当蔵町 1-11-20 新垣ビル 1F

Tel. 098-884-1123 Fax. 098-884-1124

e-mail office@miraifund.org

<http://miraifund.org>

